

## 「原水爆禁止2019年世界大会」 東広島市長メッセージ

「原水爆禁止2019年世界大会」が開催されるにあたりまして、東広島市民を代表して御挨拶を申し上げます。

広島と長崎に原子爆弾が投下され、多くの尊い命が失われてから、まもなく74年目の日を迎えようとしております。被爆者の高齢化は進み、平均年齢は上昇を続けていますが、今もなお、多くの方々が原爆の後遺症などに苦しんでおられます。この広島、長崎の悲劇を二度と繰り返さないため、未来に向けて、戦争や原爆の悲惨さ、平和の大切さを伝えていくことを、我々は忘れてはなりません。

核保有国を始め国際社会は「核兵器のない世界」こそあるべき姿であるとの認識の下、2017年に国際連合において採択された核兵器禁止条約をすべての国が締結し、現実的な手順を踏みながら無くしていくという最終目標を目指して、誠実で忍耐強い対応を続けることが重要となります。

そのため、昭和60年に「平和・非核兵器都市東広島市宣言」を行った本市といたしましても、引き続き、核兵器廃絶と世界の恒久平和の実現を訴え続け、平和行政を推進していかなければならないと考えているところでございます。

本大会では、国内外から多くの人々が広島、長崎に集合し、「核兵器のない世界」の達成に向けた熱意あふれる行動が繰り広げられます。こうした活動が世界へ発信され、核兵器の廃絶と平和な世界が早期に実現することを心から願うものでございます。

結びに、本大会の御成功と、関係者並びに御参加の皆様のみまますの御健勝を御祈念申し上げます、私のメッセージといたします。

令和元年8月

東広島市長 高 垣 廣 徳